

国土交通省の副大臣に就任し、初登庁した辻元清美氏
＝18日午後10時22分、東京・霞が関の国交省、佐々木学撮影



党務専念予定が…幹部連係ミス？

国会対策委員長に決まり党務に専念するはずだった辻元清美氏が国土交通副大臣に――。18日朝の閣議後、この情報が伝わり、社民党執行部は大混乱に陥った。

辻元氏起用に社民混乱

社民党に割り当てられた副大臣ポストは一つ。その人選は福島瑞穂党首（消費者担当相）、又市征治、洲上貞雄両副党首、重野安正幹事長の三役に一任されていた。

関係者によると、社民党は民主党に対し、非公式に国交副大臣のポストを求めていたがそれはベテランで安定感がある（党幹部とされる洲上氏のはずだった。辻元氏の起用は、寝耳に水だったのだ。いったい何があったのか。

関係者の話によると、党執行部内の連係ミスに判断ミスが重なったようだ。

17日夜、辻元氏のもとに民主党の前原誠司国交相から副大臣を打診する電話がかかってきたが、辻元氏は「国対をやっているから無理です」と断った。辻元氏は重野氏に対応を一任。しかし、重野氏は福島氏と相談しようとしたところ、電話がつながらなかった――。ある議員は「福島党

首と重野幹事長の意思疎通がうまくいかなかったみたいだ」と解説する。辻元氏がきっぱりとは断らなかったと受け止められた可能性もある。

別の疑問もある。閣議では副大臣名簿が示され、大臣の福島氏は間違いなく署名したはずだ。だが、福島氏は閣議後の記者会見で「まだ調整中が何人かいる。辻元さんもその1人。まだ確定ではない」と説明。本場に「確定ではない」と思っていたのなら、うっかり署名したことになる。

「辻元副大臣について、18日昼ごろから社民党議員たちが断続的に対応を協議。重野氏と阿部知子政審会長、辻元氏本人が集まった場では、辻元氏が「私、辞退するわ。いやもん。何でこんなことになったの」と嘆き、国対委員長を一度は断った阿部氏が「急に私、（国対委員長を）やりたくなくなったわ。あなたは副大臣をしっかりとやりなさい」と必死に説得したという。

別の協議の場では、党幹部の1人が「国対委員長に決ま

ったばかりで兼務は無理だ」と差し替えるを求めるべきだと主張。「そもそも我が党に相談なく、一本釣りのようなまねは許されない」と民主党のやり方を批判する声も出た。

しかし、重野氏が平野博文官房長官に電話して「党内的には、国対の辻元が副大臣では困る」と泣きついて、平野氏は「もう、閣議でサインされ、決まっちゃった」とつれない返事だったという。

夕方、重野氏の議員会館の事務所に又市、洲上両氏が訪れ、対応を話し合った。副大臣に選ばれた議員が認証式のために皇居に向かう時間が迫るなか、副大臣の差し替えはあきらめることになった。当面は、辻元氏が国交副大臣と党国対委員長を兼務する。近く、新しい国対委員長を選ぶ方針だ。政審会長の阿部氏が兼務する案が浮上している。

一連のどたばた劇に福島氏が調整しようとした様子はない。「想定外」の国対委員長引き抜きで引き起こされた混乱で、党運営に不安が残された。